

山陰経済動向

生産活動が一進一退で推移し、設備投資の増勢も一様ではないものの、個人消費の一部では持ち直しの動きもみられ、雇用情勢が改善傾向にあるなど、基調としては緩やかに持ち直している。

最近の国内経済については、一部に改善の遅れもみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

このような状況のもと、当地経済をみると、

公共投資は、2月の公共工事請負金額は3カ月連続で前年を上回り、持ち直しの動きがみられる（2016年4月～2017年2月累計の対前年比は7.1%増、全国3.4%増）。

設備投資は、2016年度は前年度を上回る見込みであり、2017年度は一転して前年度を下回る計画（当社企業動向調査3月の全産業設備投資額は、2016年度見込み対前年度比53.2%増、2017年度計画同26.7%減）。

住宅建設は、1月の新設住宅着工戸数が2カ月連続で前年を下回り、持ち直しの動きに陰りがみられる。

個人消費は、大型店売上高（2月）が4カ月連続で、家電量販店販売額（1月）は3カ月連続で、それぞれ前年を下回った。一方、乗用車新車登録台数（2月）は7カ月連続で前年を上回った。天候要因で下押しとなったものの、一部では持ち直しの動きもみられる。

生産は、1月の鉱工業生産指数（季調済指数）が、鳥取県は2カ月連続で前月を下回り、島根県は2カ月ぶりに前月を上回った。業種間での好不調の差などによる振れがみられるものの、総じて横ばい圏内で推移している。














雇用情勢は、1月の有効求人倍率が、鳥取県では前月差0.03ポイント上昇の1.47倍、島根県では前月差0.01ポイント上昇の1.53倍となった。緩やかに改善している（全国は1.43倍）。

企業の業況判断は、足元（2016年下期）製造業、非製造業ともに改善し、全産業でも改善となった（12.2 5.2）。先行き（2017年度上期）は、製造業が改善、非製造業が悪化を見込んでおり、全産業で悪化の見通し（当社企業動向調査3月）。

このように、当地の景気は、生産活動が一進一退で推移し、設備投資の増勢も一様ではないものの、個人消費の一部では持ち直しの動きもみられ、雇用情勢が改善傾向にあるなど、基調としては緩やかに持ち直している。

先行きについては、個人消費の緩やかな持ち直し基調が続くなかで、生産が底堅く推移し、雇用情勢の改善傾向も続くことなどから、緩やかな持ち直しの動きが続くものと予想される。ただし、海外要因による影響には留意が必要である。

【当地景気の現状判断】

<全体>	1.公共投資	2.設備投資	3.住宅建設	4.個人消費	5.生産	6.雇用情勢	7.企業の業況判断
							
現状判断の5分類	明るい 	一部に明るさ 	停滞 	不振 	厳しい 		

注： は先月より上方修正、 は同じく下方修正を示す。（ ）は修正の一手手前の状況。